

2020年度 学校評価報告書

2020年4月1日から

2021年3月31日まで

新型コロナウイルスの感染拡大による全国一斉休校措置、また、留学生が入国できない状況で 2020 年度は始まった。

本校では、2020 年度の開始に向けて 3 月にオンライン教育活動開始する準備を進め、生徒、保護者、教職員の協力を得て年度初めから全校でオンライン授業、全教職員のテレワークを開始した。オンライン教育活動は留学生の入国が完了する 9 月末まで続いたが、オンラインによる教育活動の実現と質の向上、2018 年度、2019 年度にかけて準備を進めてきた教育改革の実現を目指した。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大は本校支援者の経済活動にも深刻な打撃を与え、それは本校の運営基盤を揺るがすことになった。他校との統合の話が持ち上がり、学校の将来が不透明な期間もあったが、10 月以降は学校再建のために生徒、保護者、教職員、理事が一丸となって取り組み、学校の将来像に対する方向性が見えてきた。

1. 教育改革の実施

建学の精神「越境人の育成」、教育理念「多文化共生、人権と平和、自由と創造」を KIS の学校教育に落とし込み、学校文化として定着させるために、昨年度、KIS の価値観と原則を「人・学び・多様性」・「自由と責任」と定めた。今年度は各部署で、KIS の価値観と原則を具体化し、実践する取り組みを行った。

まず、全体で共有するルール（校則、規則、規定など）は全構成員が受け入れられるレベルまで大幅に抑えるとともに、それをしっかりと実行できるようにした。学びに関するルールはこれまでより厳格化し、服装や頭髪、化粧など外観に関する規定は撤廃した。また、これまで具体的な規定がなかった懲戒規定は具体的な内容まで言語化し、誤解がないようにした。

次に、校則や規則、規定などを柔軟に変更できるシステムを作り上げた。生徒、保護者、教職員、理事、地域住民の代表による教育評価諮問会議を年に 2 回実施し、校則や規則、規定などに関する議案を検討し、実行力ある決定をできるようにした。

2. オンライン教育活動と教育研究

半年に及ぶオンライン教育活動の過程で、生徒たちの学習効果を高めるための研究と実践を続けた。

本校では、全校生の 20% を占める留学生が入国できず、また、他府県の生徒で大阪に来ることを躊躇する生徒もいることから、「生徒と教職員の安全と教育活動の継続」を目指して、全校生のオンライン授業を実施することを決めた。

実際にオンライン授業を実施すると、授業の準備に要する時間が増えたり、ネット環境によってスムーズな授業ができなかったり、想定外の問題が噴出した。また、生徒や教職員の視力の低下や腰痛など体調の問題もあった。

そのような経験から対面授業とは違う方法で授業を進める必要があることを確認し、オンラインの特性に合わせた授業デザインとして、反転学習を一つのモデルケースとして実践し、一定の成果を得ることができた。毎日の課題の量やオンライン授業の時間を調整したり、オンラインでの交流の場を作ったり、定期的な交流日を設けたりした。また、オンライ

ン教育の実施によって、生徒の自主的な学習や生活管理が必要になり、その過程で生徒の自己管理能力が向上した。登校が始まった後も、オンライン時の教育方法を一部取り入れている。

この間の教育活動は、月2回の教育研究会において振り返りが行われ、年度末に教育研究論文集としてまとめた。

3. 言語教育と多文化共生

言語教育は本校教育活動の柱の一つで、特に日本語を母語とする生徒の韓国語教育と英語教育は学習言語のレベルまで引き上げることを目標としている。韓国語と英語は中等部と高等部1年、高等部2年と3年に分けてレベル別授業を実施しており、生徒のレベルに適した教育が実施できる環境を整えている。中等部から本校で学んでいる生徒たちは高学年になると、韓国語を母語とする生徒や英語を母語とする生徒と一緒に上級クラスで学んでいる。両言語とも上級クラスは社会問題や歴史問題などを題材にして、新聞や雑誌、インターネット上の記事などを用いて授業を行うことが多く、読解や論点の整理、ディスカッションや発表をする授業を実施しており、イメージョン授業の形式で授業が行われるようになった。

韓国や中国からの留学生も生徒たちのレベルに合わせた柔軟な対応と日本語環境下での学校生活によって日本語運用能力を高めることができた。来日1年程度で日本語能力試験1級を取得する生徒も多く、進路指導においても生徒の希望の進路を実現できるようになっている。

留学生の増加は、本校を多文化社会化し、言語環境においては相互に好影響を与えられる環境を整えることになった。前述の留学生だけでなく、日本語を母語とする生徒も韓国留学生との交流によって韓国語運用能力を高めることができるようになった。

質の高い授業と共に、多言語多文化が相互に好影響を与えられる環境を作り出すことによって、言語能力が向上し、さらには学びあいによる相互尊重と自己肯定感の向上につながっている。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、言語教育の特色である海外研修が実施できていないため、2021年度は海外研修、またはそれに代わる教育活動を考える必要がある。

4. 特別活動と課外活動

「自由と責任」が尊重される校風を作り、ルールの範囲内で誰もが安心して、自由に学び学校生活を送れるよう生徒たちに自由と責任を求めていく。そのような学校文化の中で生徒たちが年齢や発達に応じて自己指導能力を高めていくことを目指した。

学級活動では、クラス会議を基本として、クラスの問題を生徒同士が話し合って解決していけるようにした。オンライン教育活動と留学生が入国できない状況で、生徒たちが人間関係を形成するのに時間がかかったが、毎日のショートホームルームを通じた振り返りや定期的なクラス会議を通じて、学級活動の流れをつくることができた。

生徒会活動は、オンラインと言う制限下でも、工夫を凝らした特色ある活動がなされた。

また、文化祭や体育祭などは生徒たち自身が感染予防対策を講じて実施することができた。また、有志たちによる京都、大阪、神奈川、福岡の学校とのオンライン交流は1年を通じて実施され、今後も継続されることになった。

海外研修やボランティア活動など、コロナ禍で実施できないことも多かったが、特別活動と課外活動を通じて問題解決能力とコミュニケーションを育成するという目標を一定程度達成できたと考えている。

5. 進路指導

人生や職業について考えるキャリア教育と主に高学年生徒を対象として進学指導を実施した。中3から高1までの生徒を対象としたキャリア教育を月に2回のペースで実施し、将来の職業について考えるとともに、自分自身の人生について深く考えるようにした。人生から職業、進学へと続くしっかりとした考えを持った上での進学準備に取り組めるようにした。高等部3年生には生徒の進路希望に応じたきめ細かい進路指導を行い、生徒たちの希望進路実現につなげることができた。

6. 広報と生徒募集

昨年度に続き、今年度も生徒募集を最重要課題ととらえたがコロナ禍において十分な広報活動を実施することができず、また、学校統合などによって10月まで広報活動を満足に実施できなかったこともあり、スタートが遅れることになった。

10月以降、新たにK-POP・エンターテイメントコースを設置することを決め、広報と募集を開始したが、新コースだけでなく学校全体の認知度を高めることにつながった。

結果として、30名に入学生を確保することができた。（コリア国際コースなど17名、K-POP・エンターテイメントコース13名）

以上。